

## ネット情報・綿貫プロジェクトの7人

### Stop Global Warming

#### 「地球温暖化」への意識改革を訴える

一村一品・知恵の環づくり in 神奈川 環境教育部門賞を受賞

ネットワーク情報学部3年次の必修科目プロジェクトで、地球温暖化対策の意識啓発についてまとめた小室匡史さんをリーダーとする学生7人の研究「Stop Global Warming(略称・SGW)」が、神奈川県地球温暖化防止活動推進センター主催「一村一品・知恵の環(わ)づくり in 神奈川」環境教育部門賞を受賞し、12月9日、横浜市のかながわ労働プラザで表彰を受けた。



▲綿貫教授を囲んで小室さん(右)と柳沢さん(表彰式で)

SGWプロジェクトは、「学んでいる『情報技術』を社会の問題解決に活用したい」という小室さんの発案で昨年4月に始動。「いま解決しなければならない最大の課題は環境問題に対する意識を共有すること」とテーマが決まり、1月から綿貫理明教授の指導で本格的な活動がスタートした。(株)セントラルシステムズ、(社)神奈川県情報サービス産業協会、川崎市産業振興財団、学校法人横須賀学院からの協力を得て、産官学連携によるチャネルの多様化を含めたシナジー効果をねらった。

「具体的な改善方法を提示するには企業や社会との連携が不可欠。ソフトの提供を受けたセントラルシステムズの大西寿郎社長は、毎週ミーティングに参加して、企業人の目で厳しいアドバイスをしてくださいました。メンバーの出身校である横須賀学院にはアンケートに協力していただき、コンテンツの発表とフィードバックの場を提供してもらいました。中・高校生と近い世代である大学生が、直接話をする中で、より身近に環境問題を感じてもらえたら考えたことが、今回評価されたのだと思います」(小室さん)。同学院のほか、上野公園や巣鴨の地藏通り商店街など東京都・神奈川県の各地でアンケート調査を実施して、約2500件の回答を得た。

「ウェブでのアンケートより実際に会って、環境問題の重要性を説明しながら、意識改革をしていただくと考えました。『環境問題に関心はあるが、どのように行動すればいいのかわからない』という声が多く、私たちのやるべきことがそこから見つかりました」とプログラミング担当の柳澤剣さん。断られることも多く実際に声をかけたのは、この10倍近くの人数に及ぶという。

プロジェクトのコンテンツの柱は4本。「PC・モバイルインターネットの融合」は、柳澤さん、竹口正修さんが担当。来年度には神奈川県情報サービス産業協会のホームページ上に掲載してもらい、より多くの人に環境問題に関する情報を提供できるようにしたいと考えている。小室さんが担当した「ユビキタス・センサー・ネットワーク」は、温度センサーやGPSなどを使用したデータのやり取りや、地球温暖化による海面上昇が起きたときの变化を3D動画で体験して問題意識を高めてもらったり、自分の住環境で行っている対策を入力してもらったりすることなど、手軽に環境に関する情報に触れることができる。来年3月の情報処理学会で発表を予定している。深井雄大さんと高塩真広さんが担当した3D動画(リッチ・メディア)、セントラルシステムズでインターンシップを行った志賀直幸さんと青木豊さんが開発したアンケート集計システムは学部の刊行紙にその成果が発表される。

環境に関するMSNエコ川柳コンテスト(大賞にノミネート)などにも応募してきた小室さんは、「環境問題は、一人ひとりの意識の持ち方で大きく改善できると考えています。これからも意識改革に貢献できるような仕組みを発信していきたい」と話している。

## 米国公認会計士試験合格の卒業生・真嶋さん

### 「ニューヨークで働きたい」夢への挑戦 今スタートラインに

夢の実現に向けて、一步を歩み出した卒業生を紹介しよう。

国内外において需要が高まっている米国基準の会計実務のスペシャリスト「米国公認会計士(U・S・CPA)」。5月に試験に合格した真嶋有美さん(平17文)は、9月から、あらた監査法人FSインダストリー・アシュアランス部に勤務している。

黒沢真里子准教授のゼミで、モノや空間の観察から文化や歴史を読み取る方法を学び、卒論は「ニューヨークの移民」についてまとめた。ニューヨークに語学留学し、個性的な文化に引かれ、「いつか、この街で働きたい」と思うように。「黒沢先生から、ニューヨークで働くという夢のためには、資格が必要だとアドバイスされ、『通訳入門』を教わった田邊祐司教授から『米国公認会計士』という仕事を教えていただき、目標に決めました」。卒業後、会計事務所でアルバイトをしながら専門学校に通った。「試験科目のうち、『監査論』は、特に読解力が求められます。身につけた『英語を読む力』が、強みになりました」。

4、5人のチームで外資系のクライアント先に出向く日々。「先輩の仕事ぶりを見て、勉強させてもらっています。経験を積んで、夢の実現に近づきたい」と瞳を輝かせる。高いコミュニケーション能力が求められるが、サークル活動やアルバイトでの経験が、役立っているという。「進路の相談に乗ってくださった黒沢先生や田邊先生、専大でのさまざまな活動があって、今の私があります」と振り返る。

黒沢准教授は、「外資系企業での経験から、英語のできる会計士や法律専門家の需要が高いことを知っていましたので、英語英米文学科の学生こそ、このような分野で活躍してほしいと、勧めてきました。真嶋さんはその最初のモデルとなり、英語を生かした職業の可能性を大きく広げてくれました。後輩たちも続いてほしいですね」と教え子の努力をたたえている。

## 心肺停止の男性を連携プレーで救助 — 寶達佑平さん

川崎市多摩区の路上でトラック運転中に心肺停止状態に陥った男性の救命に協力した寶達(ほうだつ)佑平さん(経済3)が、11月23日、多摩消防署から表彰された。

寶達さんは11月12日、大学から自転車で帰宅途中に、川崎市多摩区役所近くの路上で、トラックを運転していた男性が意識を失い、乗用車と接触した現場に通りがかった。居合わせた会社員らと協力して男性を運転席から救出。スポーツクラブでインストラクターのアルバイトをしている寶達さんは、救命講習を受けており、会社員が心臓マッサージを行っている間、気道確保を行った。さらに先月、同区役所でAED(自動体外式除細動器)の講習を受けていた自営業の男性が区役所から持ち出したAEDで通電を行い、駆けつけた救急隊員に引き継いだ。寶達さんらの適切な処置と連携で男性は一命を取りとめ、回復に向かっているという。

アルバイト先では、業務につく前に必ず救命の訓練を行っているという寶達さんは、「体が自然に動きました。当たり前のことをしただけですので表彰していただき驚いています。以前にも2回、意識を失った方を助ける手伝いをしたことはありましたが、心肺停止状態というのは初めてでした。ほかの方々がいずれも救命の知識を持っていたので、スムーズに協力できたのだと思います。救命の知識は誰にでも必要だと思うので、講習の機会があれば、ぜひ参加してほしいです」と話している。

## 就職対策に生かして！「宅建」試験対策DVDを寄贈 — 大学院生の武井信雄さん

大学院商学研究科ビジネスコースで、小藤康夫教授の指導のもと、金融論を専攻している武井信雄さんが、自身が講師として解説するDVD「独学で取得できる宅地建物取引主任者」2セットを図書館に寄贈した。

早稲田大学卒業後、金融業界で、宅地建物取引主任者資格を生かして実務を経験後、現在は、早稲田セミナー、ヒューマンアカデミー、近代セールス社や複数の大学で受験対策講師として幅広く活躍する武井さん。受講生の合格率も高く、受験対策のエキスパートとして定評がある。

「『宅地建物取引主任者』は、不動産業界だけでなく、さまざまな企業で活躍できる資格。独学でも短期間で合格できるよう工夫した、このDVDを活用して、就職対策や知識を深めるために生かしてほしいですね」と利用を呼びかけている。



## ≪内定への道<2>≫

### Uターン就職 ―「地方は遅い」は間違い！

地元で就職したいと考えている人が少なからずいると思う。今月はUターン就職のポイントだ。

#### 【ポイント1】先手必勝！

よく、地方の採用活動は遅いと言われる。しかし、人気の地方銀行をはじめ、地元有力企業の採用活動は、首都圏と同じである。各企業は、東京で開催されるUターン就職の合同企業説明会に積極的に参加している。11月初旬に、ある県のUターン就職情報センターが主催した説明会を見学した。地方銀行やメーカーなど有力企業28社、学生約200人が参加し、各企業のブースを積極的に訪問する学生が目についた。採用に直結していないセミナーだが、早期から活動している「意識の高い学生」には企業も大いに興味を示す。開催のたびに出席をして企業理解を深めると同時に自分を覚えてもらうこともできる。また、後日、OB・OGやリクルーターとの面談が設定されることもあり、2月の個別企業説明会の時点ですでに、人事担当者には「採用したい学生」として認識されている学生もいる。今からでも遅くはない。人より一歩でも早めの行動を。

#### 【ポイント2】地元経済の把握を！

Uターン就職の理由が、「出身地に帰りたいから」だけでは弱い。地元企業に入社することは、地元経済への貢献である。まずは、帰りたい地元経済の状況把握だ。しかし、意外にこれを行っている学生は少ない。県庁や商工会議所のホームページには、地元情報が必ず掲載されている。志望企業は地元経済にどのような影響を与えているのか、現状と関連させて考えてみよう。そうすることで、自分がその企業で行いたいこと、行わなければならないことが見えてくる。

#### ☆Uターン就職は情報量が決め手！

地元情報の収集は就職課ホームページで！「就職情報リンク集」⇒「地方情報のページ」